

「3.25」圧勝の地平にふま之

反合・運輸保安・内達・動乗勤・84春闘勝利



84. 4. 9
No. 1613

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五六（公衆）〇四七二二七二〇七

4/6 6回 拡大支部代表者会議開る

拡大支部代表者会議

動労千葉は、四月六日、第六回拡大支部代表者会議を開催し、3・25決起の大勝利にふまえて、平野雅夫君事故死を契機とした反合・運輸保安確立に向けたさらなる闘いを中心に、動乗勤、八四春闘等、怒りもあらたに、一三〇〇名一丸となつて闘う方針を決定しました。

拡大支部代表者会議

「3・25三里塚」五割動員

闘争の圧勝を総括

八四春闘に突入している現段階の情勢は極めて厳しいがありますが、動労千葉は、「3・25三里塚」へ、六三三名の結集をもちとり、大勝利し、とりわけ今日の全体情勢を大きく揺り動かす闘いとして、日帝・中曽根内閣の心胆を寒からしめる闘いを貫徹したことが確認されました。

それは、第一に、動労千葉の戦闘力・組織力を内外に示しぬいたこと。第二に、今日混迷する日本労働運動―階級闘争の戦闘的再構築を「やればできる」ものとして示したこと。第三に、この「3・25三里塚 五割動員貫徹」の事実は、今日の日本階級闘争の二大天王山たる「三里塚と国鉄」での決戦で、闘う側に限らない激励と勝利の展望を与え、権力・当局と動労「本部」革マルや脱落派等の反動の側に大ショックと大打撃を与えたこと。これらの確認と確信のもとに、この闘いの全経過・成果を、一三〇〇組合員ひとりひとりの糧とし、さらに闘いを前進させようではありませんか。

平野君虐殺弾劾―反合・運輸保安闘争のさらなる強化を決定

動労千葉は、この間、運輸保安確立の闘いを存立の理念として闘いつづけてきました。このようなかで、三月三十日極めて不幸な事態が発生しました。しかも組合員の「殉職」及び車掌・乗客多数が重軽傷を負うという断じて許すことのできない重大事故が発生したのです。この事故は、明確に日帝・中曽根・国鉄当局による臨調・行革大合理化攻撃による虐殺そのものです。運輸保安確立に向けた動労千葉の強い要求に対して「事故の原因は、自動車の運転手にある」などと、責任逃れをする当局の姿勢こそ厳しく断罪しなければなりません。動労千葉は、即日「指令第十四号」「第十五号」を発し、闘いつづけていますが、われわれは、今後、さらに運輸保安確立の取り組みを強め、平野君の無念の死をむだにしない闘いをあらゆる手段

動乗勤改悪阻止闘争の経過と方針を確認

動乗勤改悪攻撃は、全国鉄の動力車乗務員の六割を占める動労が、当局と完全一体となつて、三月三十日、「三月末決着」の裏切り妥結に走り、動労千葉を除く全組合があいついで四月一日までに妥結に至りました。

動労「本部」革マルは、既に、三月三十日、その前段わずか十日間位で「すでに論議をつくした」と強弁して、またぞろ鉄労と共に屈服と裏切りの片仕切りを強行し、全組合への屈服を強要してきました。こうした当局の先兵にますますのめりこむ動労「本部」革マルの追放・一掃の闘いをおし進めなくてはなりません。

このような極めて困難な状況の中で、動労千葉は精力的な交渉をつみあげ、トップ交渉をも含めて当局を追いこみ、今後のダイ作等における闘いへの足場をつくりつつ、全情勢を勘案し、四月五日十九時をもって集約しました。（詳細は次号『日刊』にて報告）

第六回拡大支部代表者会議は、以上のような立場に立つて、今後も闘いぬき、その上で、現時点の情勢を組合員の利益を守り、とりわけ、動乗勤＝運輸保安確立に向け闘いを強めることを確認し次の通り具体的取り組みについて決定しました。

- ① 次期大会まで内達対策委員会を継続し、協定整理の中で、組合主張をおしこむ取り組みを強化する。
- ② 次期「ダイ改」へ向け、今次集約内容についての学習会を強め、ダイ作等の場面をとらえ徹底的に当局を追及する。
- ③ 運輸保安問題について、原則的闘いを展開し、動乗勤制度改善へ向けた闘いを強める。
- ④ 今次集約の考え方と内容について、職場集会等をもって全体化をはかる。

84春闘の現情勢と当面のとりくみを確認
（『日刊』第一六一二号に既報の通り一略。）

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ！